

若年層対策事業「中高生・若者向けゲートキーパー啓発マンガ冊子」

(北海道札幌市)

【概要】

2016年度「若年層向け自殺対策に係る普及啓発事業」において作成したマンガ冊子を市内の中学校（市立、国立、道立、私立）に在籍する新中学1年生に配布している。配布時期は、例年7月上旬から中旬頃に夏休み直前の配布を想定している。マンガ冊子はマンガページとその他のページで構成されている。ゲートキーパーの役割や接し方などについて、身近な事例を挙げ、マンガで伝える。

【大綱の分類】

- 2) 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
- 11) 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 重点1-5) 若者自身が身近な相談者になるための取組
- 基本3-1) リーフレット・啓発グッズ等の作成と活用

【事業実施年度】2020年度事例

【事業予算】510千円（2020年度）

【利点】

- ▼マンガという媒体の使用により、子どもや若者の読むことへの抵抗感を軽減できる。
- ▼悩んでいる本人へのアプローチではなく、周囲の子どもの対応による影響に重点を置くことで、現時点で悩みがない人も、ひとりひとりが主観的に読むことができる。

【実施に至るまで】

新中学1年生を対象とした背景

- ①札幌市の未成年の自殺率が政令指定都市で2番目に高いことから、中学・高校世代の若者を対象に2016年度末にマンガ冊子を作成し、2017年度から配布を開始。
- ②2017年度においては、市内の中学1年生から高校3年生を対象に各学校を通して配布（202校、103,310部）。
- ③2018年度以降は、新中学1年生を対象にすることで、市内の中高生の大多数がマンガを通して、ゲートキーパーについて知る教育の機会を確保。

計画を立てる上での工夫

- ①日常生活において悩んでいる人に対する周囲の些細な反応が、その人にどのように影響するかを描くことによって、悩んでいる友人等を見かけたときや相談されたときの適切な対処法を伝える（ゲートキーパーの役割に重点を置く）。
- ②マンガページのほかに、その他のページを設け、接し方のポイントやゲートキーパーの解説、市内の相談先紹介などを掲載する。
- ③紙媒体のみではなく、札幌市精神保健福祉センターのホームページである「札幌こころのナビ」上にWeb媒体で公開し、時間や場所を問わず読めるようにする。
- ④学校における活用の場を広めるために、配布時に活用状況を調査するためのアンケートを実施し、結果を各学校にフィードバックする。

事業の具体的な内容

▼2020年度配布状況

- ・市内の中学校 120 校（16,690 部）に配布。
- ・配布時にアンケートを同封し、活用状況を調査。

▼アンケート調査結果

- ・大半の学校が夏休み前の朝読書やホームルーム等で、説明を加えた上で配布している。
- ・自由記述での回答においては、マンガという媒体が子どもに親しみやすいと高評価である。

【成 果】

- ▼マンガという媒体を用いることで、大半の児童が真剣に読み、興味を持った様子がうかがえた。
- ▼教師やスクールカウンセラーからもゲートキーパーの説明に役立った等、高評価である。

【補 足】

- ▼マンガで知ろう「ゲートキーパー」の役割 (表紙) マンガ冊子 (裏表紙)



【課 題】

- ▼時代背景等を考慮し、定期的にマンガ内容の精査が必要
- ▼Web 媒体でも掲載していることの周知が不足

【事業種別】	若年層向け自殺対策
【準備期間】	60 日
【人 数】	1 人
【人口規模】	1,973,432 人
【財政規模】	1,029,500,000 千円
【自治体負担率】	1/3 (若年層対策事業)
【事業対象】	新中学 1 年生
【支援対象】	様々
【委託の有無】	一部あり
【実施主体・問合せ先】	札幌市精神保健福祉センター (TEL : 011-622-5190) Mail:kokoronocenter@city.sapporo.jp

【参考資料・文献】

1. 札幌こころのナビ
(URL : <http://www2.city.sapporo.jp/hottokenai-kokoro/hottokenai-kokoro.html>)
2. マンガで知ろう「ゲートキーパー」の役割 マンガ冊子
(Web 媒体 :
<https://www2.city.sapporo.jp/hottokenai-kokoro/contents/manga01/index.html>)